



別海町立中春別中学校



学校だより

令和4年9月30日発行

学校でのキャリア教育について

校長 岩崎 撰也

キャリア教育とは、生徒の皆さんが一人の社会人として、職業人として自立するために必要な、基盤となる能力や態度を育てる取り組みです。コロナ禍にあって、2年生で行う職業体験は11月に延期して実施する予定となっており、修学旅行では上級学校訪問などを実施する予定です。こうした中、今月の全校集会では将来の生き方について考えることに関わって、先日亡くなられた京セラの創業者、稲盛和夫さんの話をしました。

皆さんも聞いたことがあると思いますが、au（KDDI）という会社があります。他にも京セラという日本を代表する企業を創業した稲盛和夫さんという方が今年8月に亡くなられました。「現代の松下幸之助」とか「ベンチャーの神様」と呼ばれた人で日本や中国で多くの会社の経営者に影響を与えた人でした。特に中国では訃報のニュースが3.8億回閲覧されるなど、高い関心を持たれており、TikTokの創業者ジャン・イーミンやアリババ（中国版アマゾン）のジャック・マーなどは稲盛さんと会えた時に涙を流したと伝えられ、心から尊敬していたことがうかがえます。

この稲盛さんが「若いときは失敗の連続だった。そしてこの挫折こそが成功の布石となった。」と著書の中で述べています。旧制の中学校（今の高校）を2回受検に失敗、1年遅れで私立の中学に入学します。この頃、日本は敗戦し、家の商売も下火となり苦しい経済事情の中、親を説得して受検した大阪大学も不合格、なんとか鹿児島大学（工学部）に入学します。就職もなかなか決まらず苦勞しますが、大学の先生の紹介で京都のガラス製造会社に就職します。ところがこの会社、寮はボロボロ、畳すらありません。会社の間人関係もぎすぎすしており、給料も遅れて配られるような状態でした。同期で入社した人たちが次第にやめていく中、自分もやめたいと思いますが、兄に「せっかく就職した会社を簡単に辞めるべきではない」と説得されます。「目の前のことをやるしかない。」と覚悟を決め、寮にも帰らずセラミックの研究に没頭します。我も忘れて仕事に励むと、黙々と研究を続ける先輩たちの存在に気づきます。愚痴ばかり言っていた自分から卒業し、状況を受け入れて努力したことで人間的に成長した稲盛さんは多くの仲間に影響を与えるリーダーになっていきます。しかし、研究の現場に理解のない上司とどうしても折り合えず退社、会社を去って行った仲間とともに「京セラ」を立ちあげます。京セラはエレクトロニクス（電子工学）の進化の波に乗り急成長、世界的規模の会社に成長していきました。

将来生徒たちが職に就く上で、どんな職業を選んでも決して楽なことばかりではなく、苦勞もあります。そんなとき、自分が置かれた状況から逃げずに立ち向かう覚悟が必要であり、壁を乗り越えたときに見えてくるものが人それぞれにあると思います。そのことを伝えたくてこの話をしました。10月からは後期に入ります。特に3年生の皆さんは進路に対して真剣に向き合う意識が求められます。目の前の高校入試だけではなく、その先の進路を見据えて、目標を持って頑張ってもらいたいと思います。